

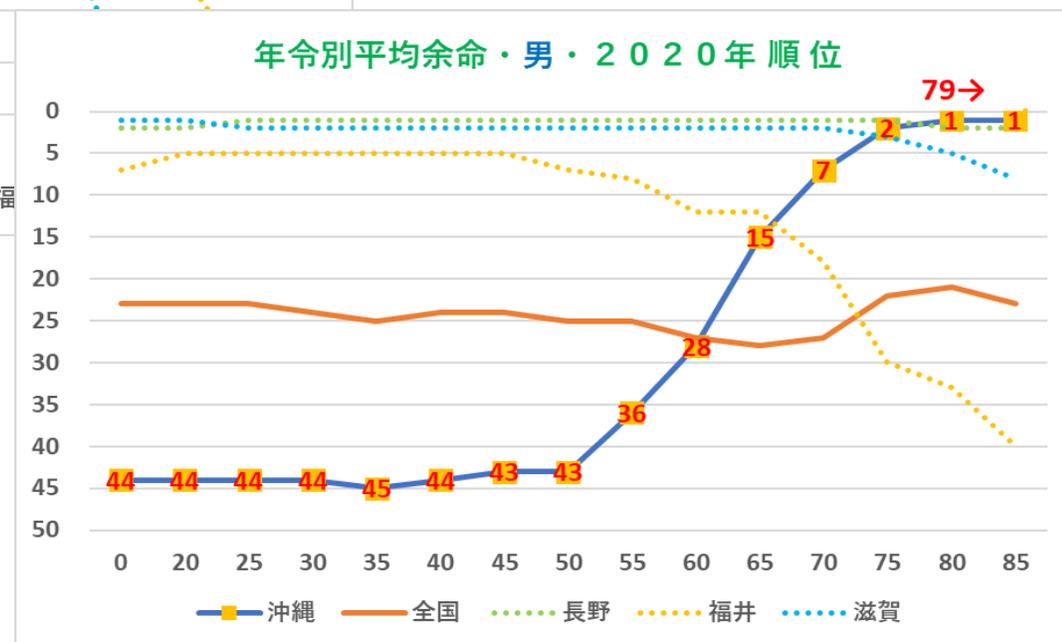
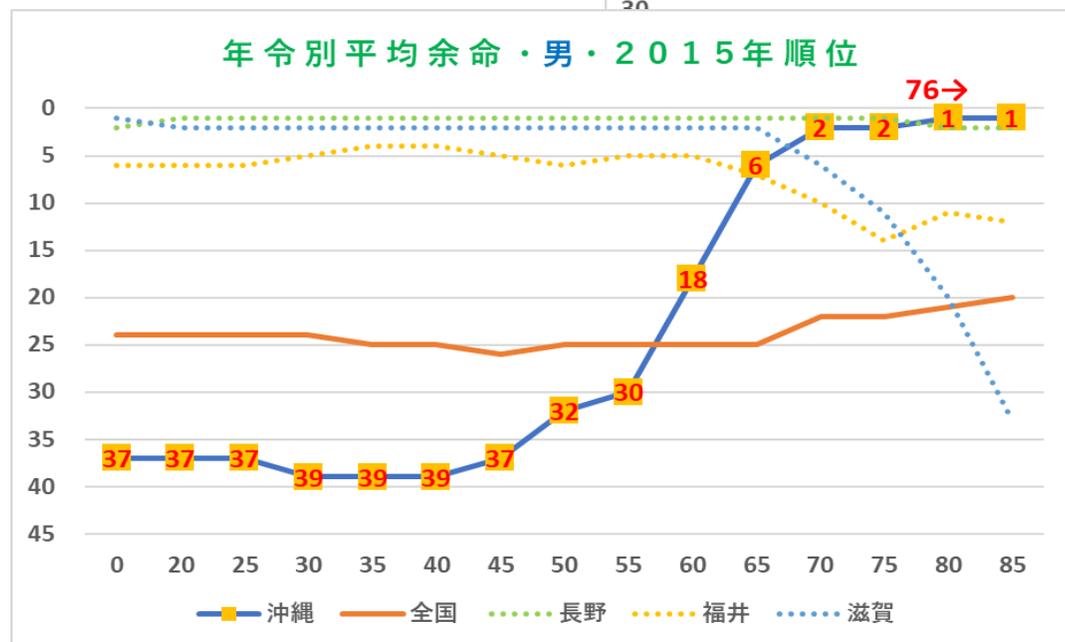
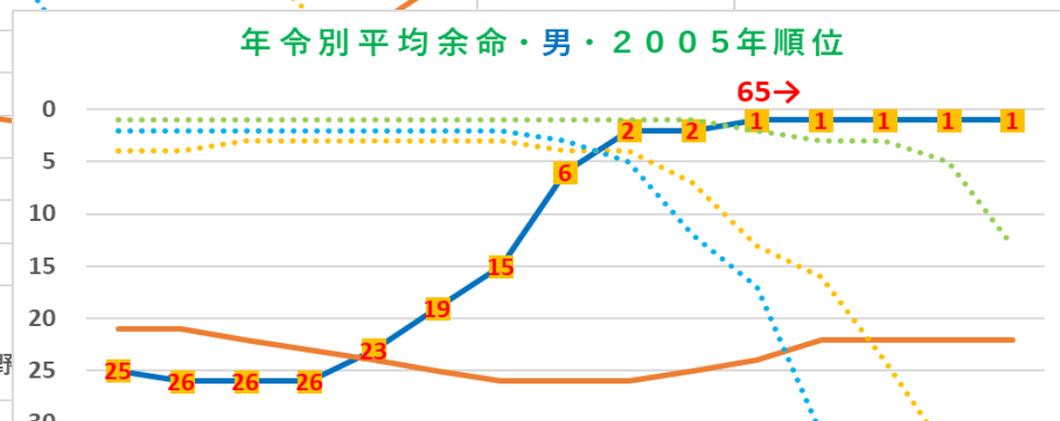
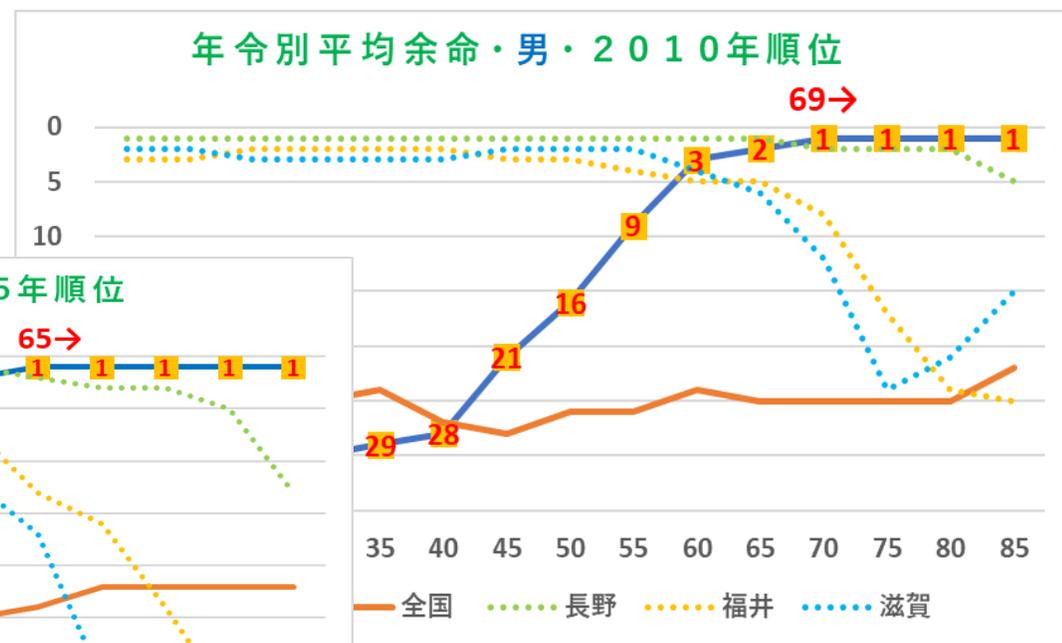
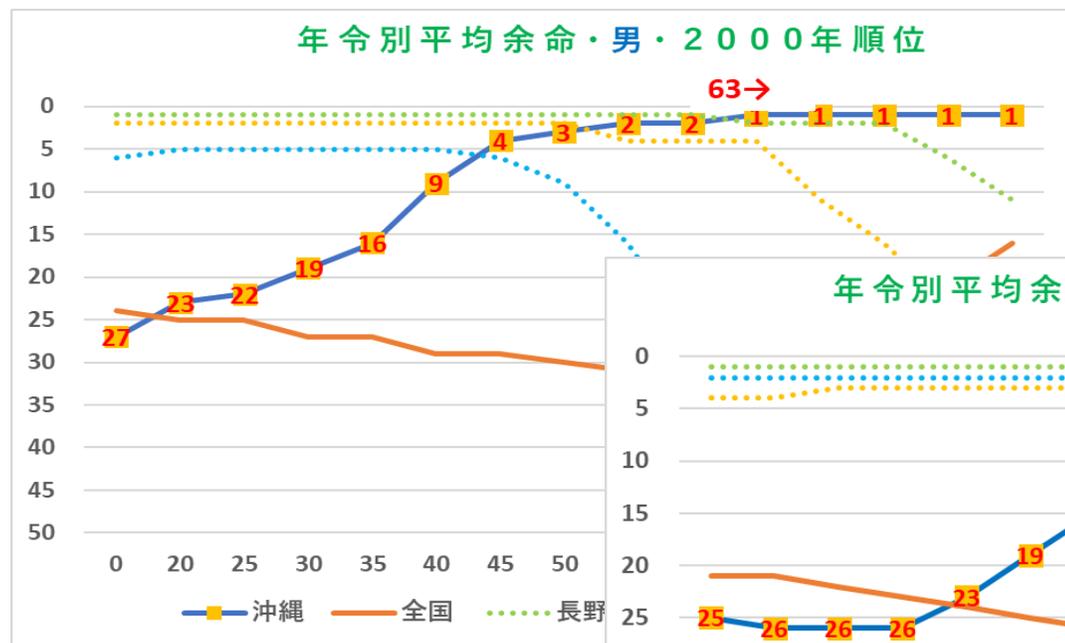
沖縄県のご長寿は、健在です！

必要なのは ハイリスクアプローチ

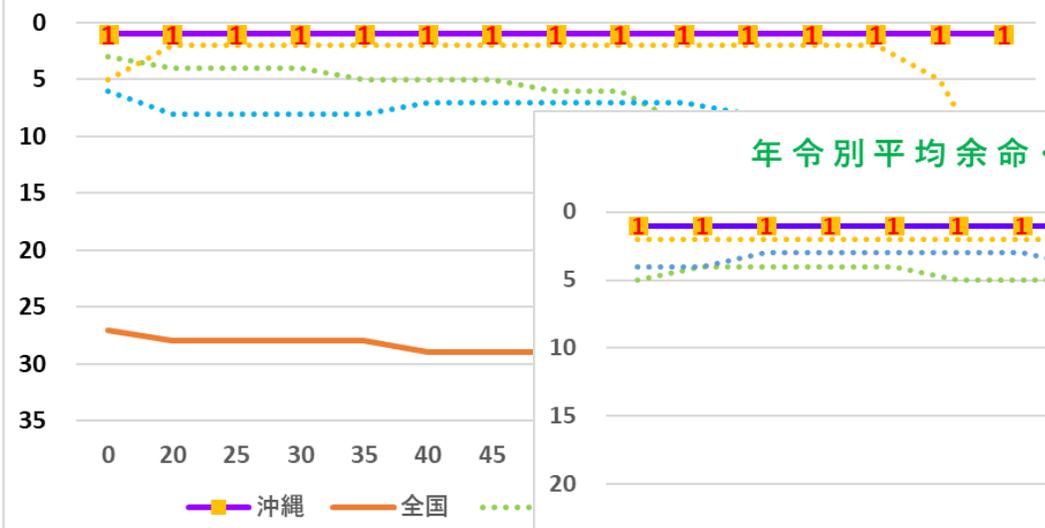
沖縄県の「働き盛り」は、
がん検診の受診率が低いため
早期がんの発見が遅れ、
がんによる死亡を増やす
原因になっていないだろうか？

音声 by 動画制作会社VIDWEB (<https://vidweb.co.jp/>)、音声データは非公開です。

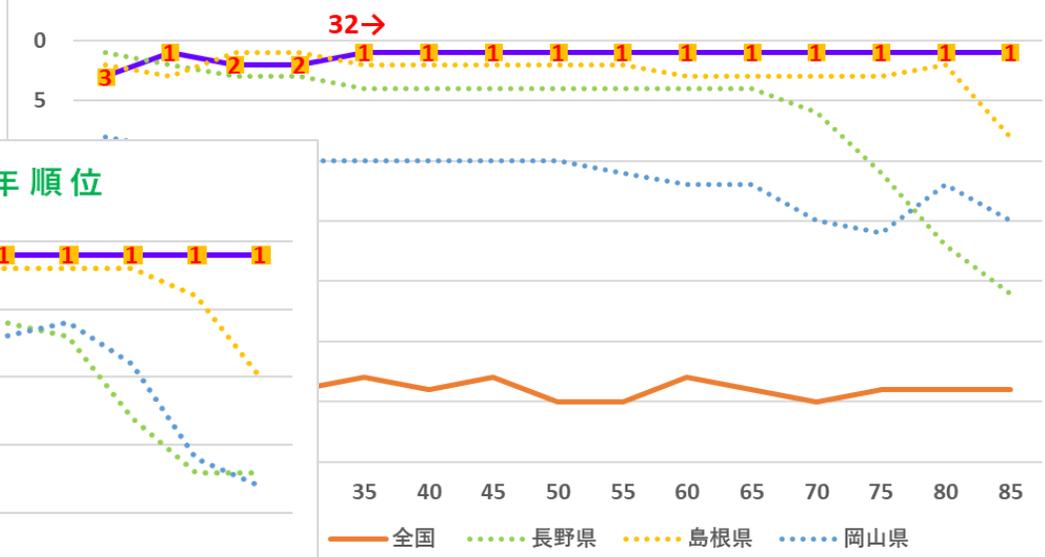
がん経験者の会：又吉 賢弘



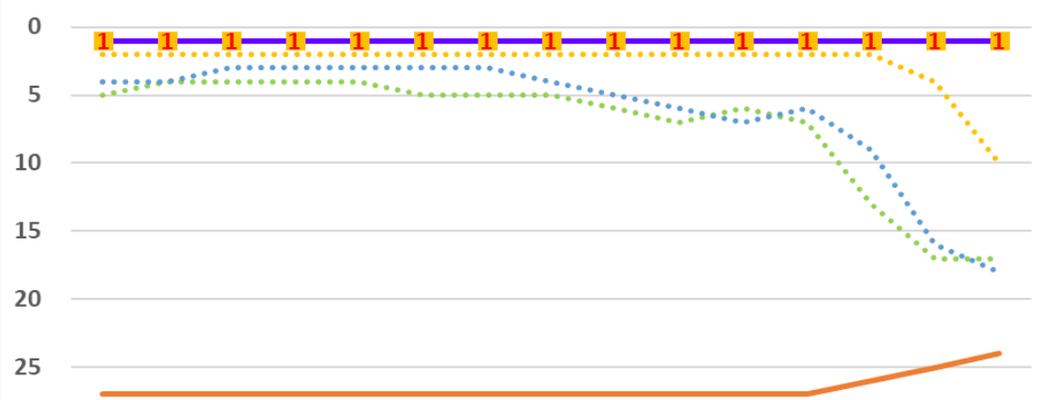
年令別平均余命・女・2000年順位



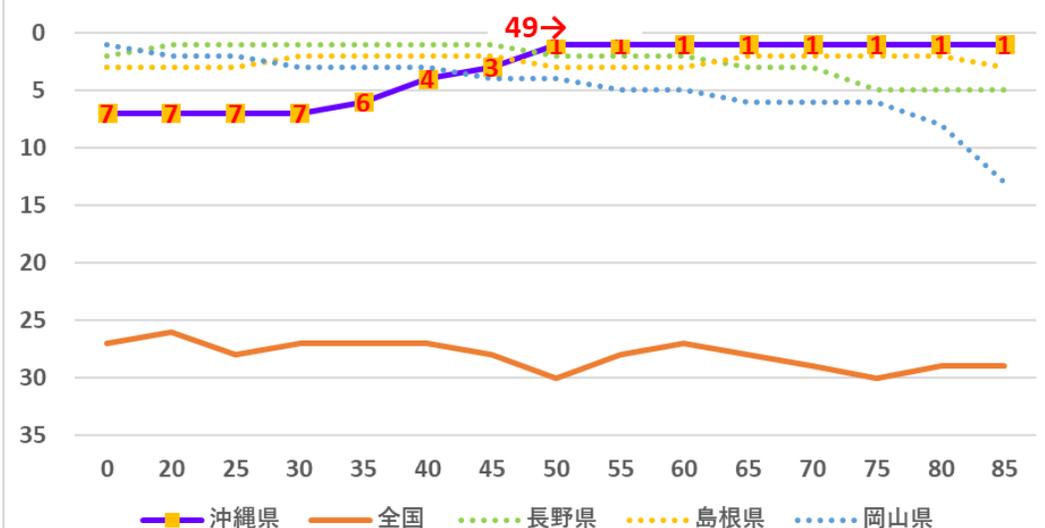
年令別平均余命・女・2010年順位



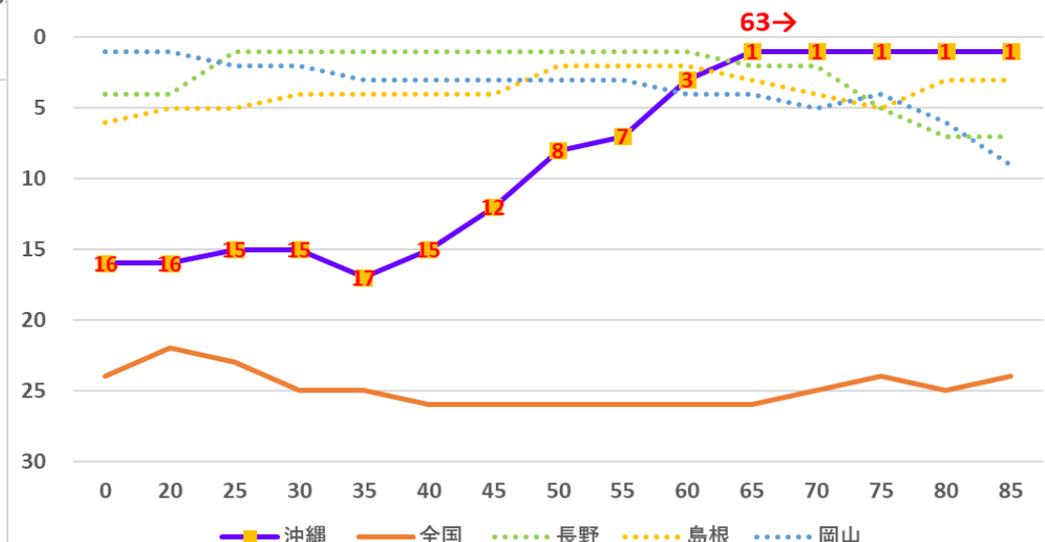
年令別平均余命・女・2005年順位



年令別平均余命・女・2015年順位



年令別平均余命・女・2020年順位



沖縄県における性・年齢・死因別死亡率の推移 —1973年から2009年における沖縄県と全国との比較—

桑江なおみ

Trends in the Death Rates by Sex, Age and Leading Causes of Death
in Okinawa Prefecture

— Comparisons between Okinawa and Japan from 1973 to 2009 —

Naomi KUWAE

要旨: 沖縄県において「健康おきなわ21」の全体目標項目指標値として設定された20-64歳の年齢調整死亡率を中心に県民の死亡状況について、1973-2009年の沖縄県と全国の年次推移について比較した。早世の状況を把握するための20-64歳年齢調整死亡率は、沖縄県では1990年代以降で横ばいとなって、男女とも全国値を上回った。とくに男性では、一貫して減少傾向を示す全国値との格差が2000年以降で拡大してきた。死因別にみると、多くの主要死因で男女とも全国値を上回っており、とくに肝疾患、急性心筋梗塞、脳出血、糖尿病などで増加傾向が顕著に認められた。また、期間別にみた全国値を1とした年齢階級別死亡率比は中高年期で増加傾向を示し、1990年代まで全国より低かった65歳以上の高齢者の年齢階級別死亡率比は格差が縮小した。

Key words: 年齢階級別死亡率比, 年齢調整死亡率, 20-64歳の年齢調整死亡率, 死因, 沖縄県, 全国との比較

I はじめに

沖縄県では、壮年期死亡の減少、健康寿命の延伸、QOL（生活の質）の向上の実現に向けた健康づくり実施計画

（歳以上）の年齢調整死亡率についても算出した、また、1973-2003年までの死亡状況について分析した「26 ショック！沖縄県の平均寿命と死亡状況」¹⁾に準じて2004

これまで沖縄県の長寿を支えてきた戦前生まれの高齢者の減少と戦後生まれの高齢者の増加は、今後の沖縄県民の平均寿命、年齢調整死亡率に大きく影響することが予想され、沖縄県の長寿は、今や最も深刻な危機に直面している。

沖縄県は全国で最も肥満者の割合が高い県である。高栄養、低運動、多飲など生活習慣病リスクの増加が、20-64歳年齢調整死亡率の増加をもたらしていることは明白であり、今後この世代が老年期に移行すると、全国値より低い水準を保っている65歳以上高齢者の年齢調整死亡率も全国値を上回ることが予想され、**（残念ながら「がん検診」の4文字は確認できない。）**

出典：沖縄県衛生環境研究報 第44号 (2010) p 71~82

88 投稿

沖縄長寿の神話

—戦前・戦後を通じた沖縄県民死亡率のコホート分析—

オカモト エツジ
岡本 悦司*

目的 沖縄県男性の平均寿命は1980~85年に全国一となり「健康長寿県」のイメージが定着したが、その後は急落し、最新の2015年生命表では36位である。戦前においても沖縄県は決して長寿県ではなく、沖縄県男性の長寿化は戦後35~40年の一時的な現象であった。その原因として、1945年の沖縄戦による選択的生存仮説すなわち「戦争による犠牲の大きかった世代ほど、戦後の生存率がよかったのではないか」という仮説をたて、戦前戦後の人口統計や生命表を用いて検証した。

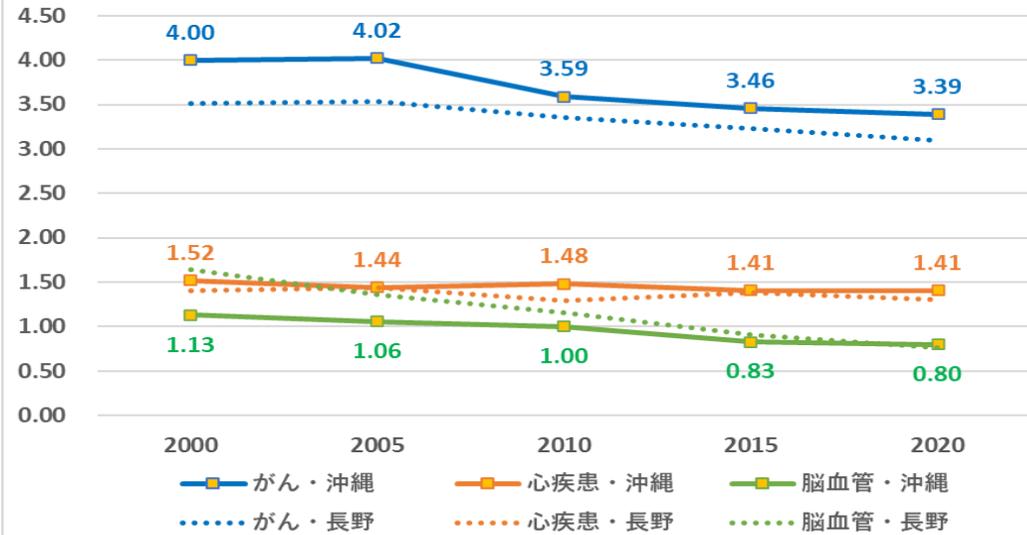
方法 戦前と戦後に琉球政府によって実施された国勢調査ならびに生命表より沖縄戦前後の相対生存率を出生コホート別に推計し、コホート別の戦後の標準化死亡比（SMR）との相関を評価する。

結果 沖縄県男性について沖縄戦前後の相対生存率と戦後の標準化死亡比とを出生コホートごとに比較したところ、正相関（ $R^2=0.34$ ）がみられた。すなわち、沖縄戦前後で相対生存率の低い（＝戦争による犠牲が大きい）世代ほど、戦後の標準化死亡比が低い（＝死亡率が低い）傾向がみられた。女性についてはそのような正相関はみられなかった。

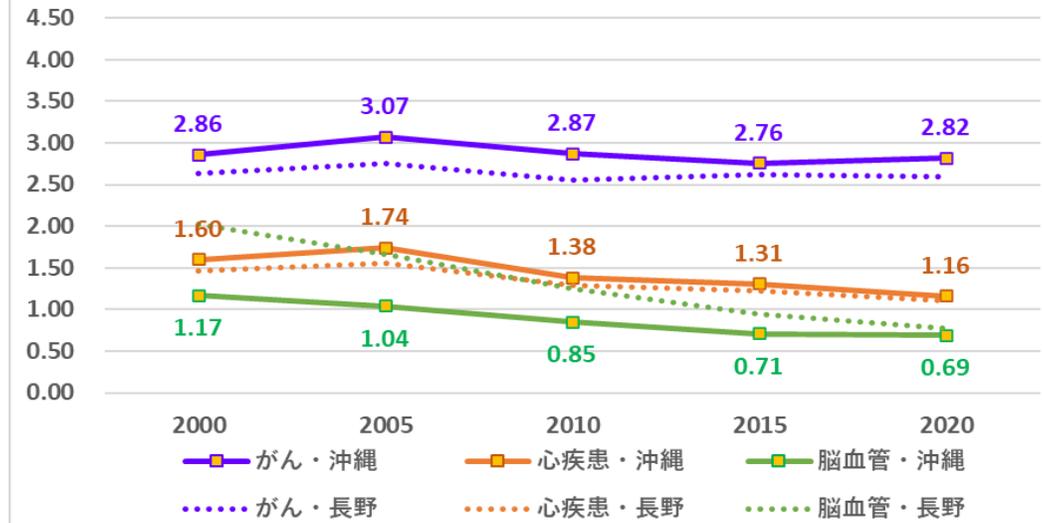
戦争による犠牲の多い世代ほど、生き残った者の戦後の死亡率は低い傾向がみられた。沖縄戦は3カ月以上に及ぶ過酷な戦闘であり、強い生命力を有する者だけしか生存できない、いわゆる「選択的淘汰」が働いたと考えられる。戦後35~40年に沖縄県男性の平均寿命が一時的に全国1になったのは、食生活やライフスタイルの影響ではなく、沖縄戦による一時的な効果であったと考えられる。

出典：厚生指標 2022年11月号(第69巻第13号) P7~12

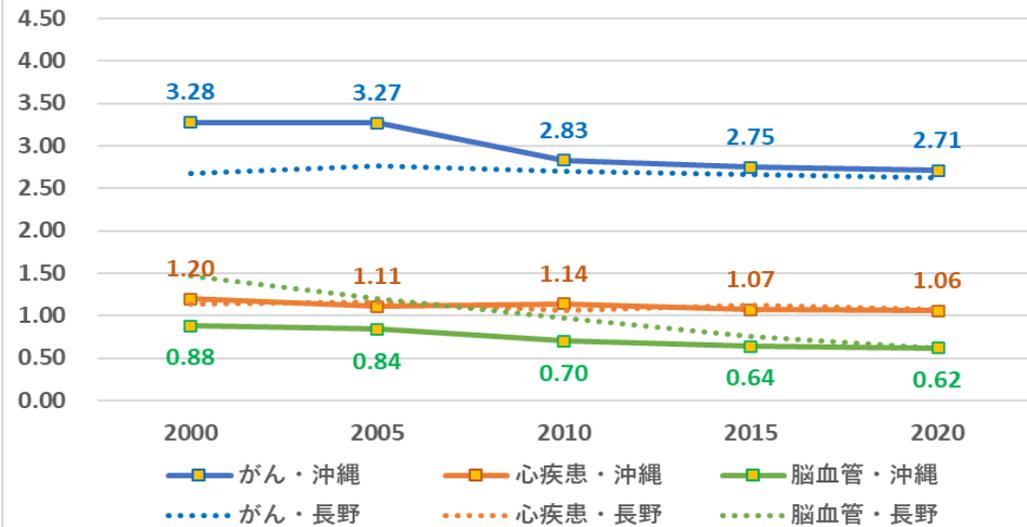
特定死因除去による平均余命の伸び・40男



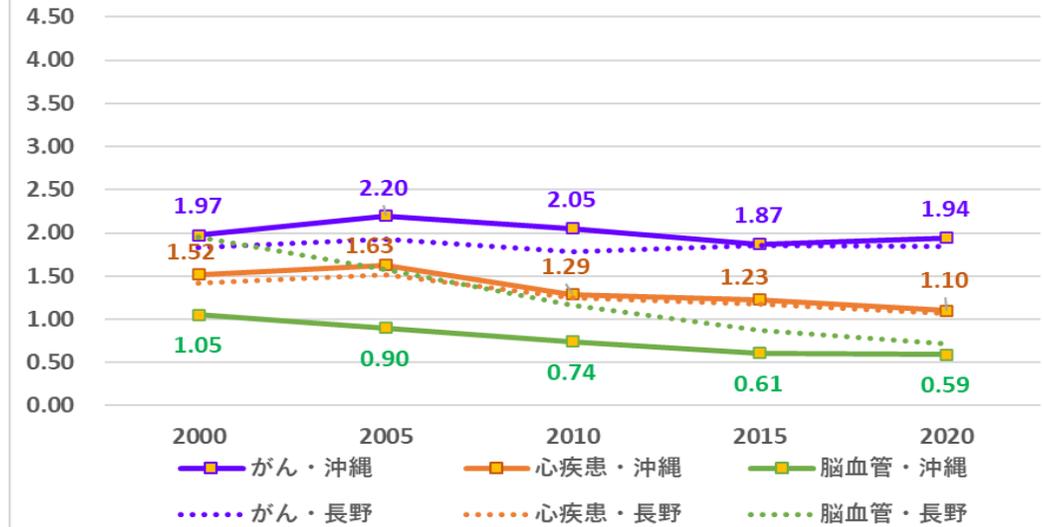
特定死因除去による平均余命の伸び・40女



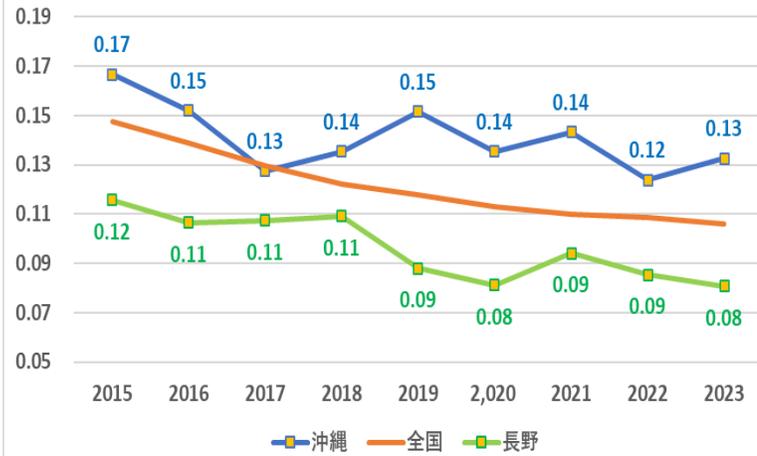
特定死因除去による平均余命の伸び・65男



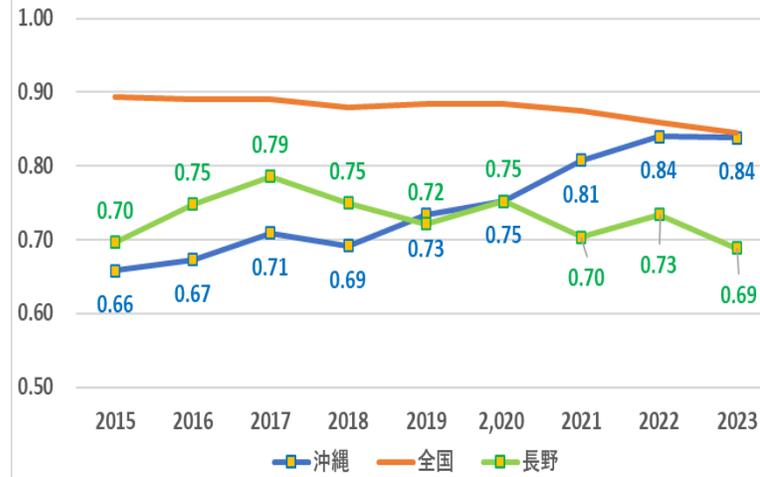
特定死因除去による平均余命の伸び・65女



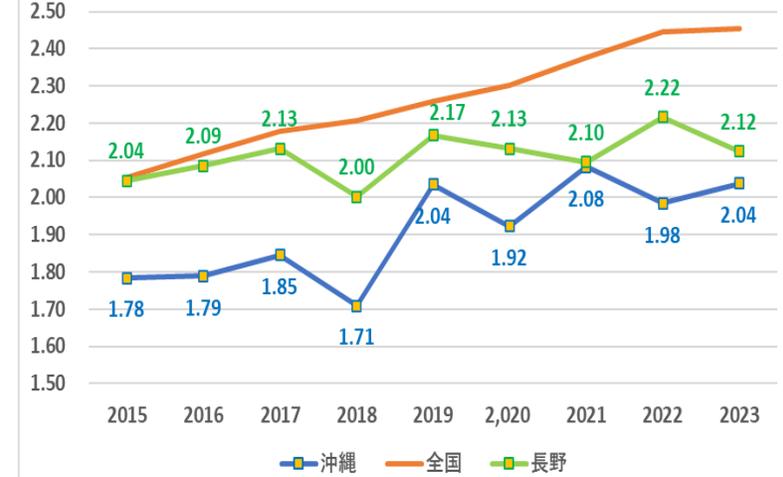
年令別がん死亡率 (%) ・ 40~64才 男



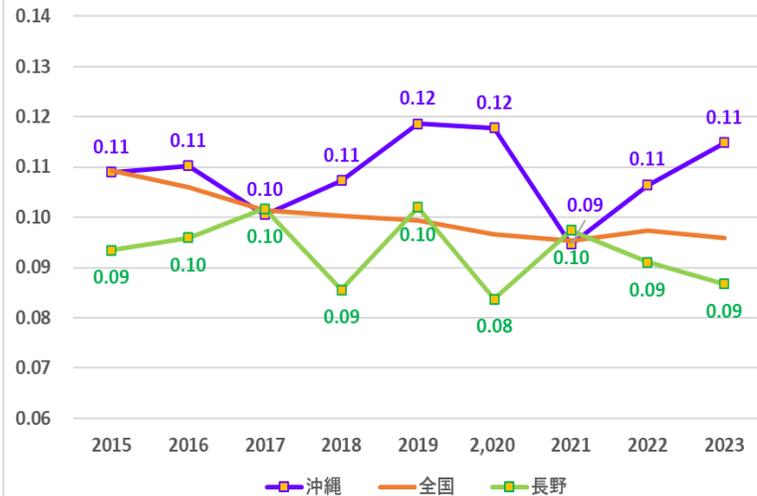
年令別がん死亡率 (%) ・ 65~79才 男



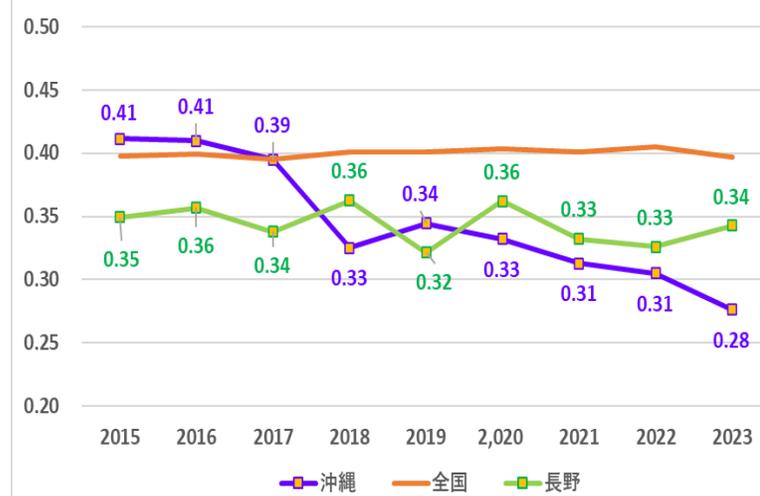
年令別がん死亡率 (%) ・ 80才以上 男



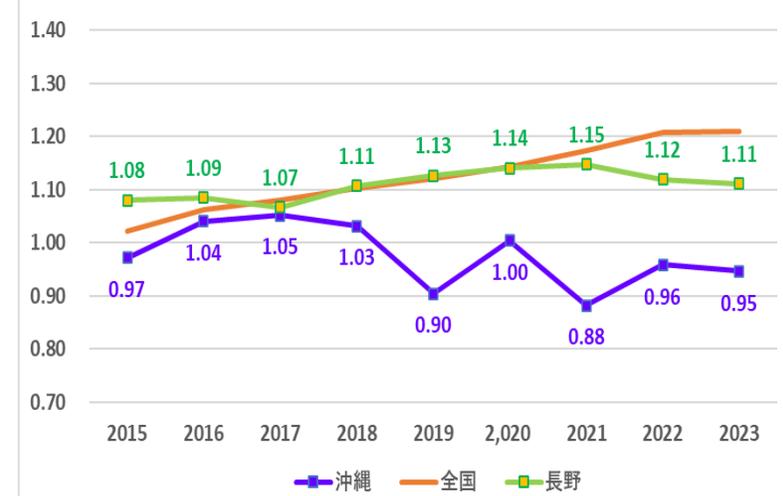
年令別がん死亡率 (%) ・ 40~64才 女



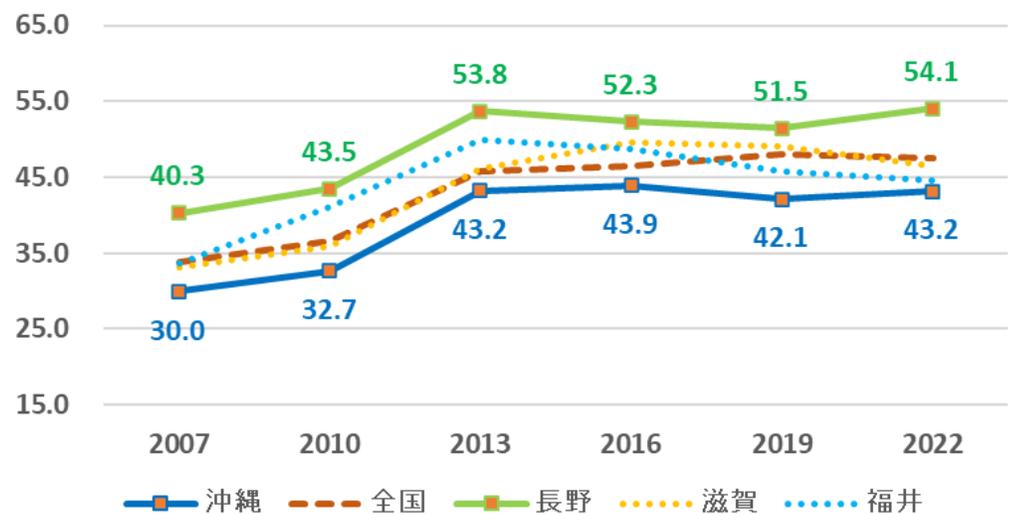
年令別がん死亡率 (%) ・ 65~79才 女



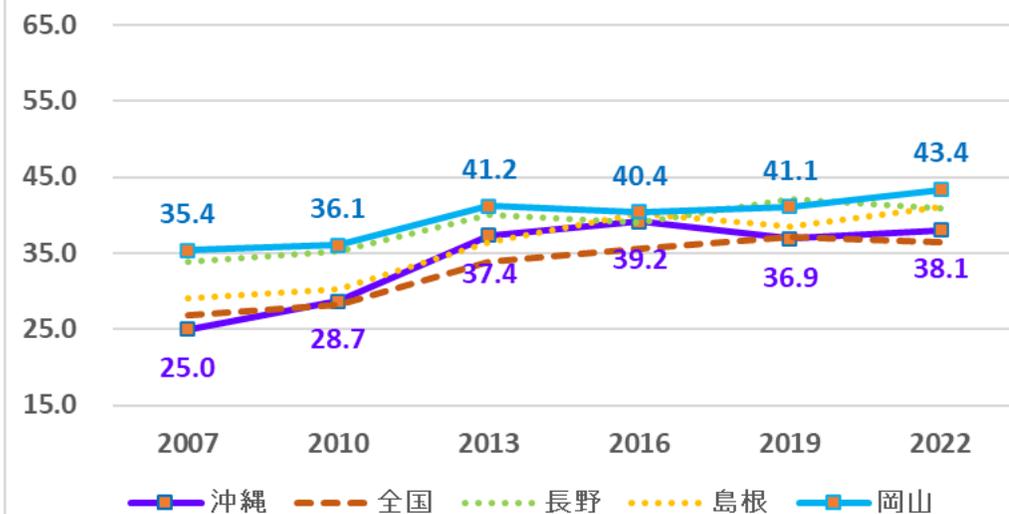
年令別がん死亡率 (%) ・ 80才以上 女



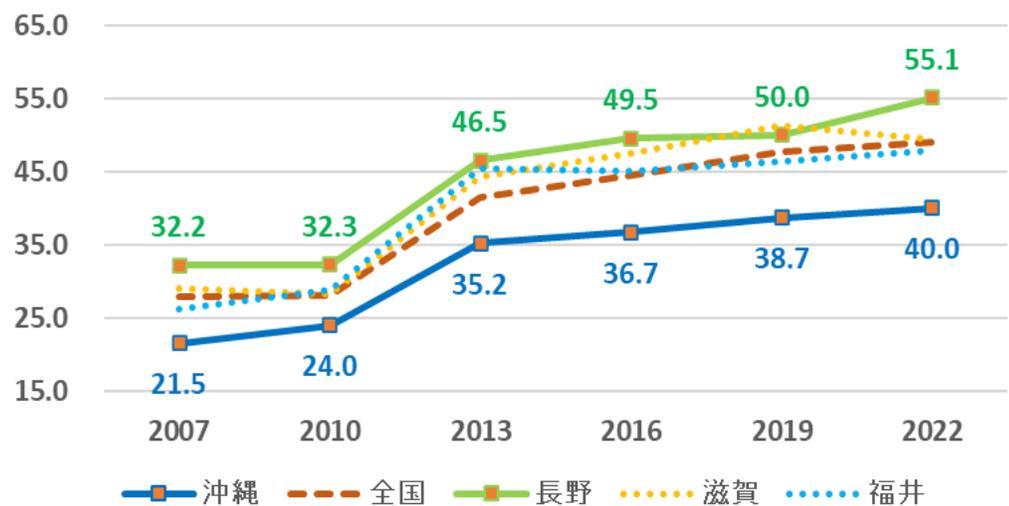
胃がん受診率・40～69才男



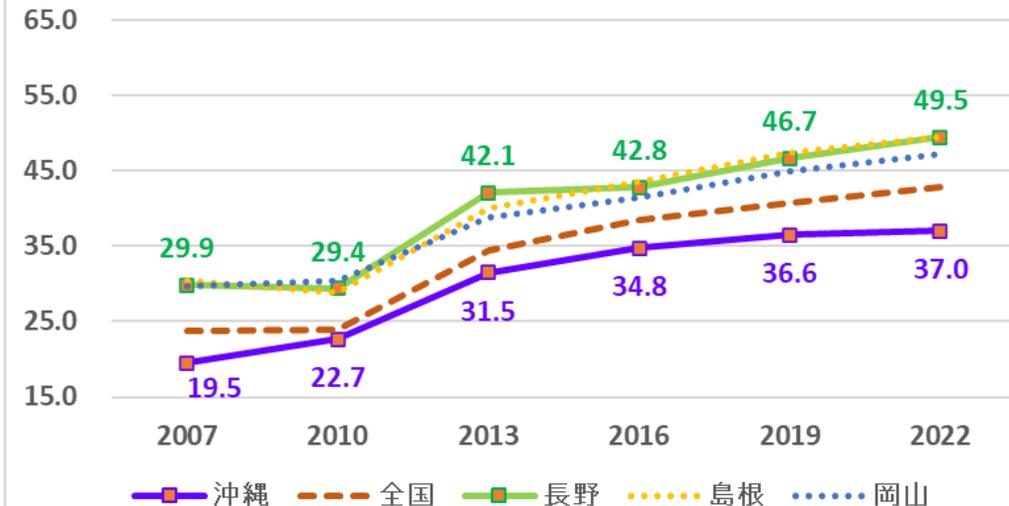
胃がん受診率・40～69才女



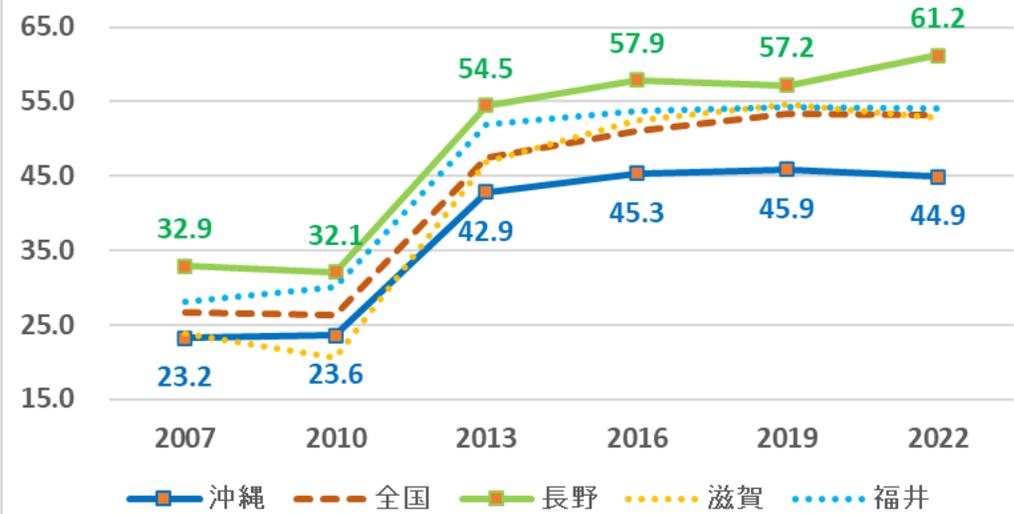
大腸がん受診率・40～69才男



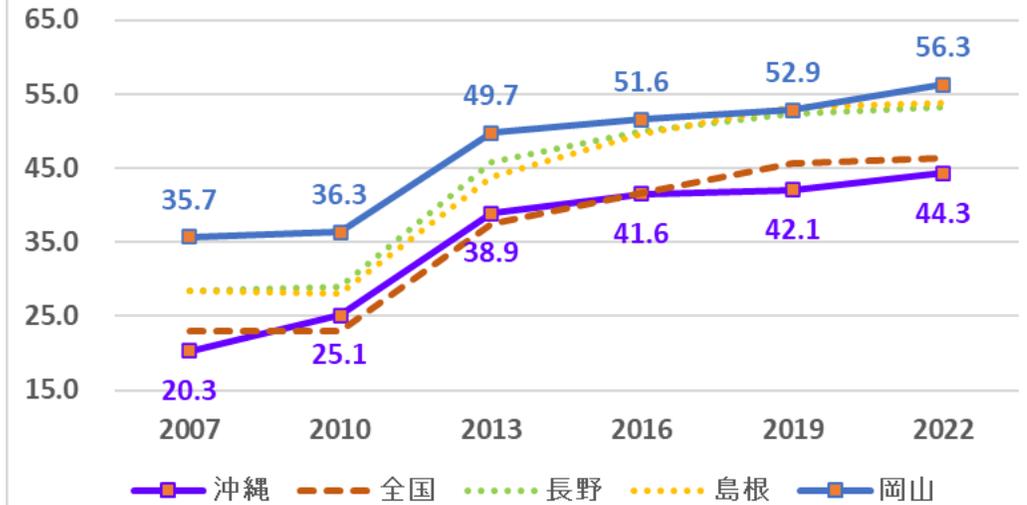
大腸がん受診率・40～69才女



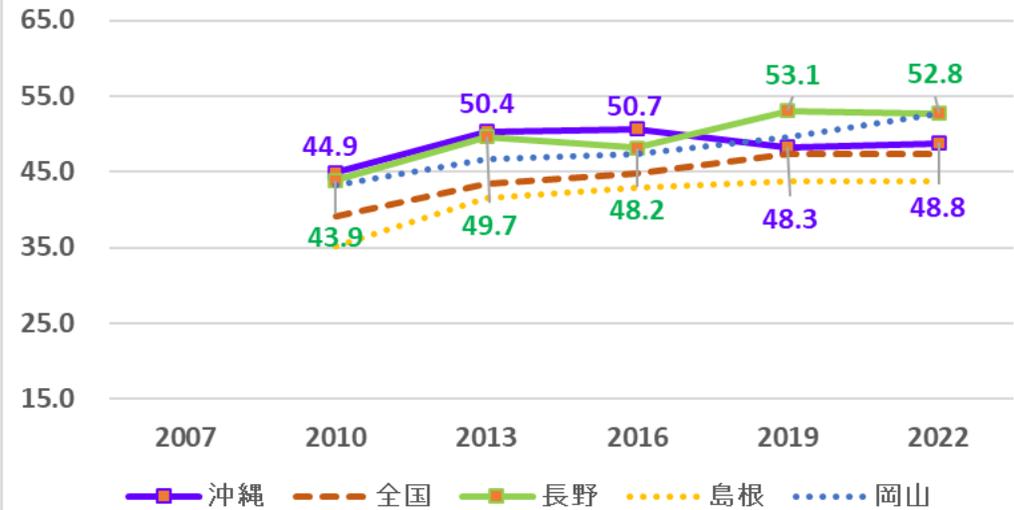
肺がん受診率・40～69才男



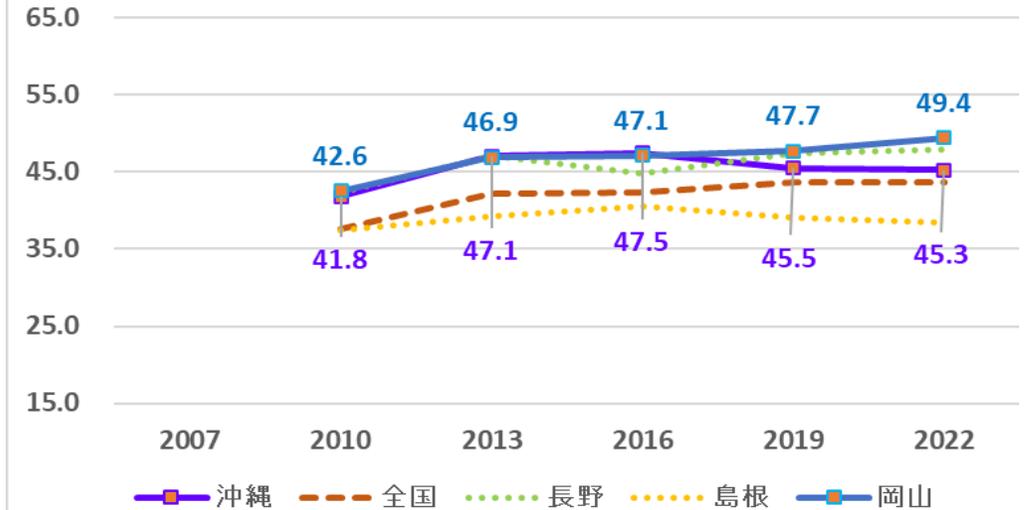
肺がん受診率・40～69才女



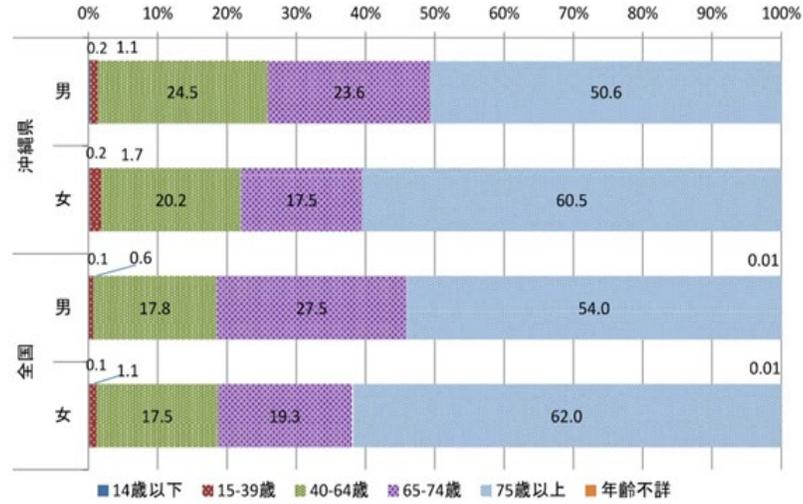
乳がん受診率・40～69才



子宮がん受診率・20～69才



2012年



9年間同じコメント

「男女ともに沖縄が高くなっている」

2020年

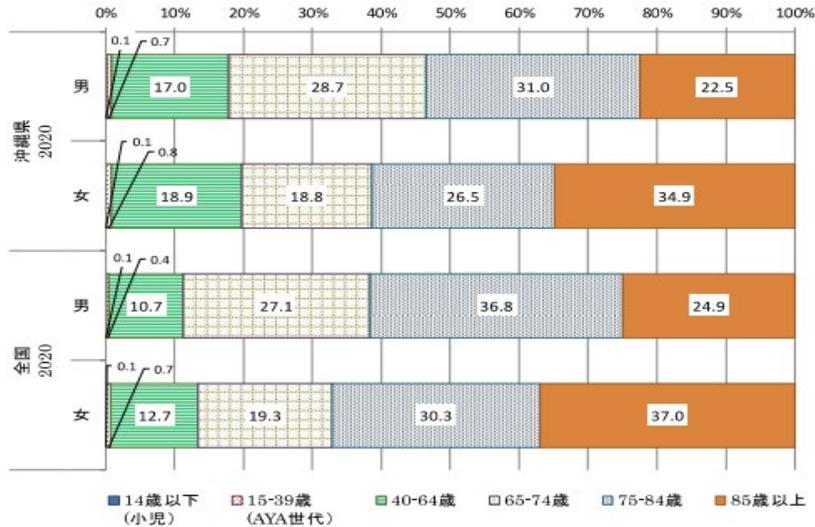
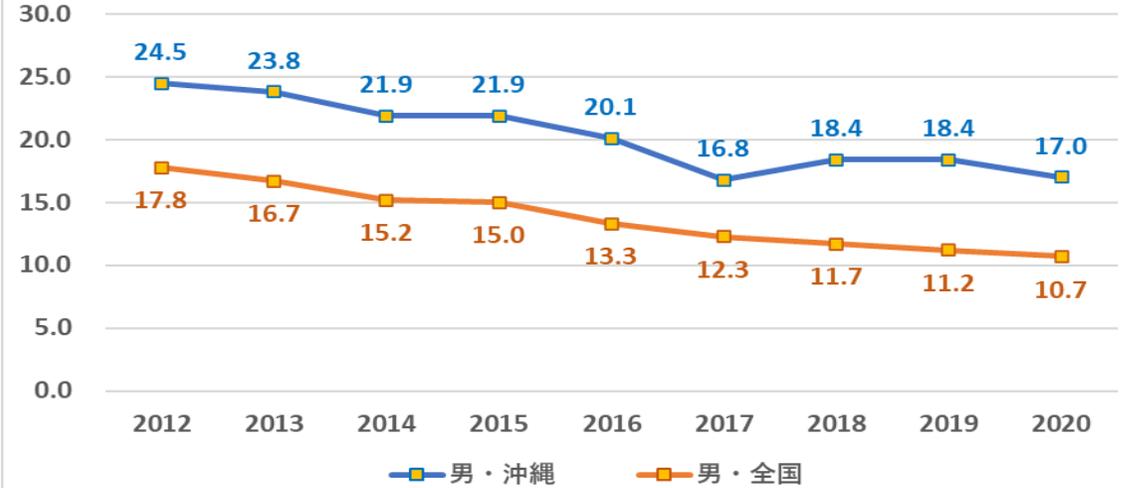
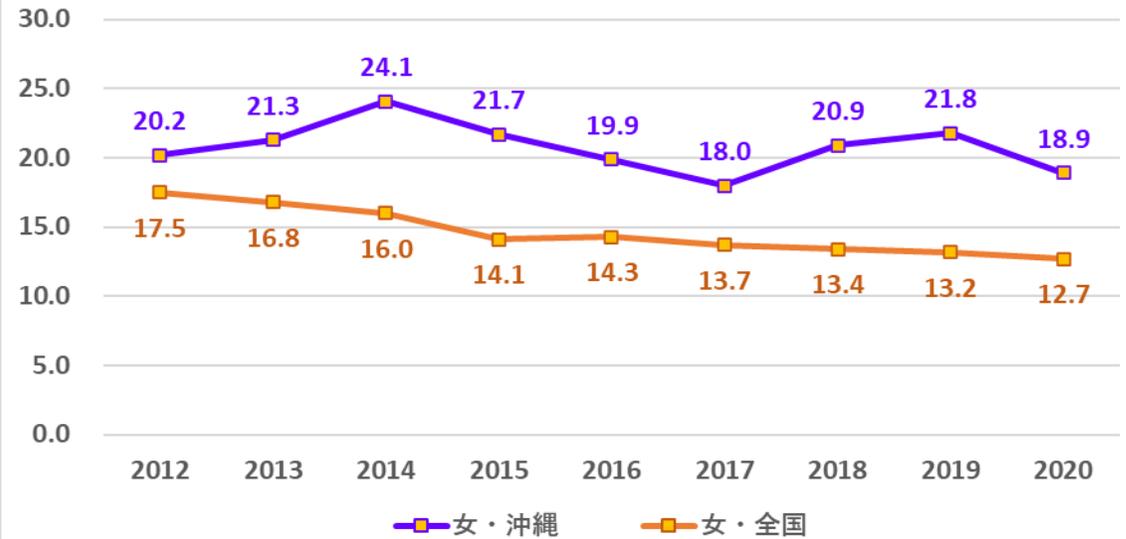


図 12 年齢階級別死亡数割合(%) (表 10 から作成。年齢不詳を除く。)

40~64歳がん死亡数割合・男



40~64歳がん死亡数割合・女



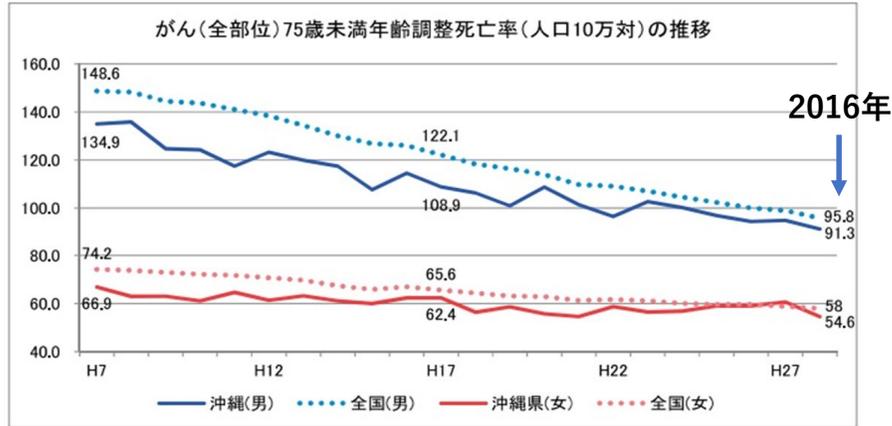
出典：沖縄県がん登録事業報告書（2012～2020年罹患集計）

第8次沖縄県医療計画（令和6年3月）・第2章 沖縄県の医療の現状

県のがんを取り巻く状況

75歳未満年齢調整死亡率（人口10万人対）

がん死亡（全部位）の75歳未満年齢調整死亡率（人口10万人対）の年次推移は、平成7（1995）年から平成28（2016）年の約20年間で、男女ともに減少傾向にあります。



出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」

沖縄県がん対策推進計画(第3次)中間評価

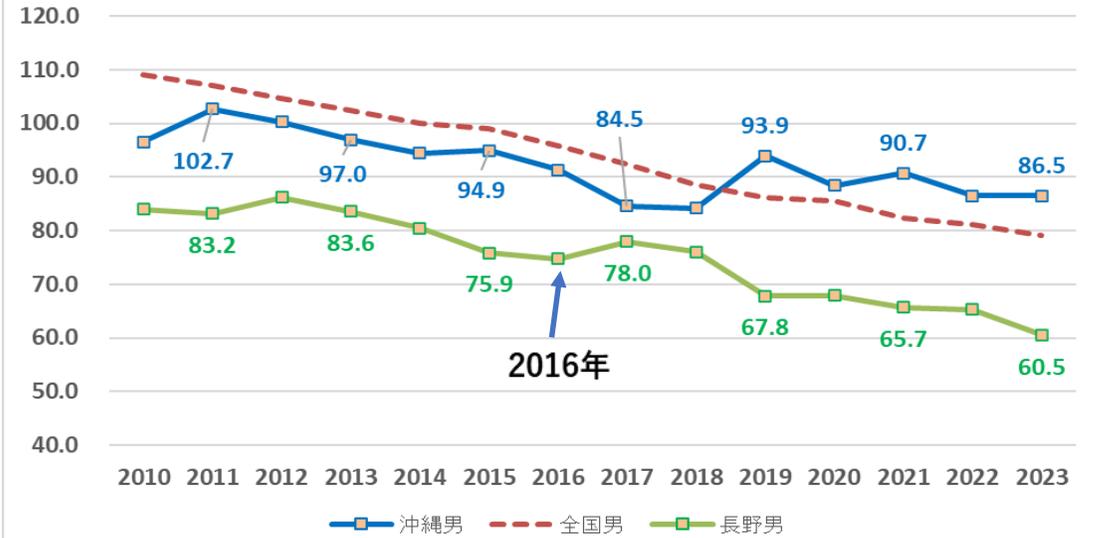
令和4年10月
沖縄県保健医療部健康長寿課

(b) 指標の進捗状況

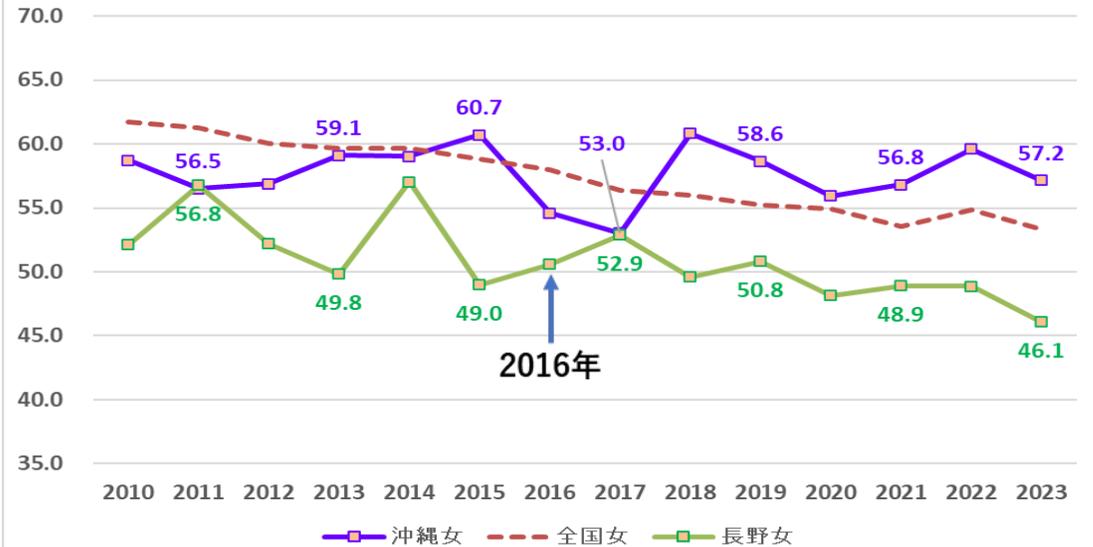
③がん検診受診率(%)	臓器	基準年	H30	R1	R2	直近	目標値	進捗状況
		(H28)	(H28)	(R1)	(R1)	(R1)		
	肺	43.6	更新なし	更新なし	43.9	更新なし	50.0	改善(△)
	大腸	35.6	更新なし	更新なし	37.4	更新なし		改善(△)
	胃	41.4	更新なし	更新なし	39.6	更新なし		後退(▽)
	乳	50.7	更新なし	更新なし	48.3	更新なし		後退(▽)
	子宮頸	47.5	更新なし	更新なし	45.5	更新なし		後退(▽)

(出典：国民生活基礎調査)

がん（全部位）75歳未満年齢調整死亡率（人口10万対）男



がん（全部位）75歳未満年齢調整死亡率（人口10万対）女



出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」（人口動態統計）